

社会的孤立の実態と防止策

愛知東邦大学 経営学部 1年
今瀬政司ゼミナール 青木花凜

研究レポートフルペーパー要旨発表

目次

社会的孤立とは

I.研究の概要

II.研究結果

III.分析結果

IV.考察

V.提案・展望

引用・参考文献

社会的孤立とは？

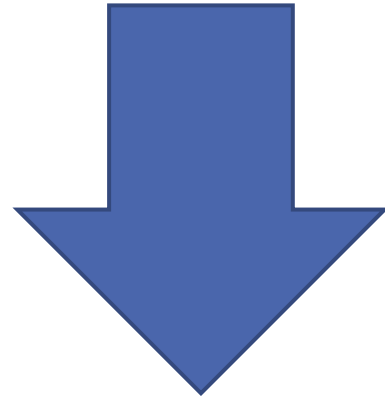
- 家族や地域社会との交流が、客観的に見て著しく乏しい状態のこと (2010,内閣府)
- **孤独死やひきこもり、高齢者による犯罪の増加**などの要因(2021,内閣官房孤独孤立対策室)
- 政府は2021年に孤立問題に取り組む、**閣僚級ポスト**を設置(2021,内閣官房孤独孤立対策室)



I. 研究の概要

I-1. 研究目的

社会的孤立と社会的孤立がもたらす様々な社会問題の解決が必要



そのために…

先行研究において重要視されてきた「**社会的孤立**」の問題に対する

効果的な解決方策を明らかにする (空閑, 2008, p 15)

I-2. 研究内容

- 先行研究で「自ら望んで孤立している人に対しても社会的に介入する必要があるのか」 (2008, 後藤, p15) と指摘されていたように、そもそも本当に**社会的孤立は問題なのか**をそれがもたらす影響をもとに考える
- 社会的孤立の状況に陥る人の特徴や背景、現在の日本で行われている支援活動例と他国で行われている支援活動例を調査・分析する

I-3 .研究方法

- 内閣府『平成22年版高齢社会白書』
- みずほリサーチ&テクノロジーズ「社会的孤立の実態・要因等に関する調査分析等
研究事業報告書」
- その他各種資料

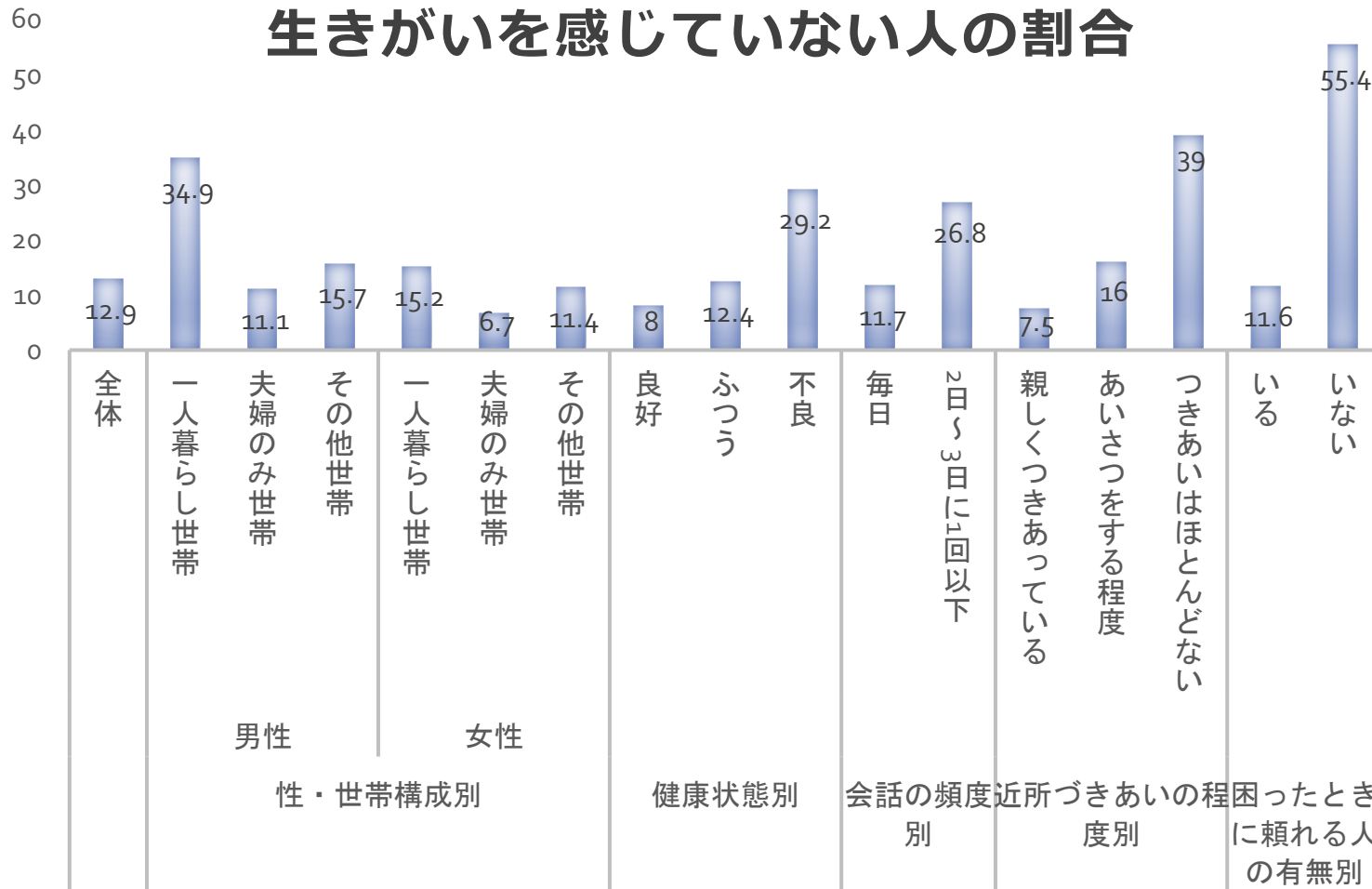
上記の先行研究などをもとに、**社会的孤立の状況に陥る要因**や、**現在行われている支援活動**を分析し、**解決方策**を考える

II. 研究結果

II-1. 社会的孤立がもたらす影響

(%)

生きがいを感じていない人の割合



- **過半数以上**が生きがいを感じていない (2010,内閣府,p.57)
- 経済的困窮に陥る人、生活満足度が低い人や**健康状態がよくない人**の比率が高い
- 抑うつ傾向が強い
- 犯罪を繰り返す高齢者には**孤立の傾向が認められる** (2018,齋藤,p30-44)

資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成22年）

II-2.社会的孤立に陥る要因

①近所づきあいの希薄化

1998年時点では64.4%だった近所の人と親しく付き合っている人の割合は、2014年には31.9%となり、26年の間に半分以下に減っている

②核家族化や未婚者の増加による**単身世帯の拡大** (2014,内閣府,p25)

II-3.社会的孤立を防ぐ取り組み例①

-イギリスでの事例-

「エイジ・ユークイ」による「ビ・フレンディングサービス」

- 週に1回、ボランティアが地区の高齢者に電話をかける
- 高齢者とボランティアの**興味や関心を前もって聞き取り**
両者をマッチングする
- 高齢者にとっては、毎週決まった人から電話がかかって
くることになり、**生きがい**につながる (2021,多賀)



引用：無料イラストかわいいフリー素材集:いろいろな携帯電話で話す人のイラスト (irasutoya.blogspot.com)

II-3. 社会的孤立を防ぐ取り組み例②

-イギリスでの事例-

「コスタ・コーヒー」の「おしゃべりテーブル」

- 店内に**知らない人同士が囲む専用テーブル**を1つ設置
- そこでは誰もが自由におしゃべりできる
- 当初は全国25店でスタートしたが、**反応が良いとして全国300店**にまで広がった (2021,多賀)



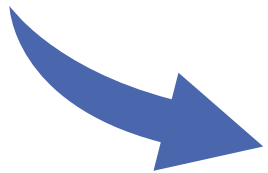
II-3.社会的孤立を防ぐ取り組み例③

日本で行われている取り組み

- 社会的孤立者に声掛けを行い、「**孤独にならないよう行事等の参加を促す**」例が多くみられた（2021,大阪府社会福祉協議会）
- この取り組みは、一部の人には効果があり、問題の一部は解決されてきている

III. 分析結果

社会的孤立はすべての世代の、**経済面と健康**に悪影響を及ぼす



よって、社会的孤立は**解決すべき問題**といえる

社会的孤立を解決するためには？

孤立した人が**必要とされていると感じる環境作り**や**居場所作り**が重要

IV. 考察①

- 地域行事に参加するようになれば孤立は解消されやすくなるが、孤立者が既に出来上がった地域組織に突然参加するのは容易ではないと思われる
- 1人で参加するよりは、**同じような立場に立つ人**と、複数人で参加するほうが、**心理的ハードルが下がる**のではないか
- そのためには、同じように**社会的に孤立している者同士で仲を深める**必要性がある

IV. 考察②

- 仲を深めるためにはどうすればよいのか調べたところ、**類似性の法則**を見つけた
- 類似性の法則とは、初対面の人でも、何か共通の事柄を見つけると一気に心理的な距離が縮まる場合があるというもの (2022, かねでんCSフォーラム)
- お互いが社会的孤立に陥っている状況だということは、たいへん**大きな共通点**となり、類似性の法則が作用するのではないかと推察される

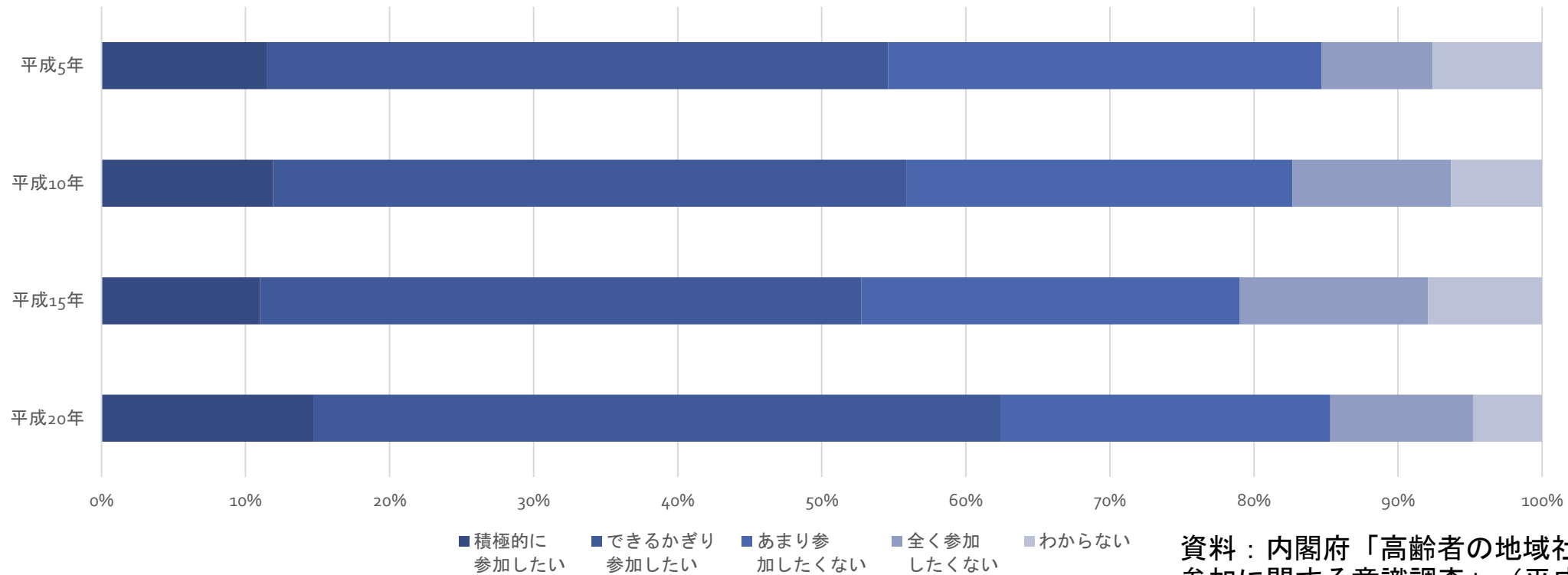
V.提案 · 展望

V-1. マッチングアプリを活用した支援策

- 内閣官房孤独・孤立対策担当室主導で、類似性の法則を活用した**社会的孤立者**
のためのマッチングアプリを開発することを提案する
- このアプリでは、孤立者によって入力された様々な情報を活用し、類似性の法則が強く作用する共通点が多い人を見つけ、通話やチャットができる
- 自治体と連携し、親しくなった孤立者同士が実際に会うことができる行事を企画し、数回に1回、その行事に**一般の地域住民らも招く**

V-2.高齡の社会的孤立者への支援策①

若い世代との交流の機会の参加意向



- 高齡者の約6割が若者との交流に参加したいと考えている（2017,内閣府）

V-2.高齡の社会的孤立者への支援策②

- 子供との交流により、高齢者には、**地域共生意識**や、楽しさ、生き生きとした気持ち生まれる（2019,角・木下・福永）
- 世代間交流には、高齢者だけでなく子供側にもメリットがあり、先行研究で指摘されていた「**『助ける側』『助けられる側』という関係の固定化**を防ぎ、孤独・孤立したときに**互いに助けを求めやすい社会**」（2022,岡本）の実現が期待できるのではないかと考える

V-2.高齡の社会的孤立者への支援策③

- 高齡者の社会的孤立の解決方策として、高齡者と子供の**世代間交流の機会を増やす**ことを提案したい
- 高齡者と学童クラブに通う児童に対して、事前に許可とアンケートを取り、両者をマッチングさせ、定期的に高齡者宅に児童が教職員と訪問するという取り組み

V-3. 今後に向けて

- 今後も、人間付き合いの希薄化や未婚者、単身世帯の増加が進むと予想される我が国において、社会的孤立者はさらに増加する可能性が高い
- 社会的孤立者の「居場所」をつくれるかが、これからの日本社会の課題となるだろう

引用・参考文献①

- 内閣官房 孤独・孤立対策担当室（2021）「あなたはひとりじゃない」
<https://www.notalone-cas.go.jp/support/>（閲覧日2022年11月7日）
- 内閣府（2010）「第1章 第3節 1 社会的孤立に陥りやすい高齢者の特徴」
<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2010/zenbun/html/s1-3-1.html>（閲覧日2022年11月7日）
- 後藤広史（2008）「社会福祉課題としての『社会的孤立』」
- 内閣府（2010）『平成22年版高齢社会白書』
- 斎藤雅茂(2018)『高齢者の社会的孤立と地域福祉』
- 内閣府（2014）『平成26年版高齢社会白書』
- 内閣府（2017）『平成27年版高齢社会白書』
- 内閣府（2008）「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」

引用・参考文献②

- 内閣府（2010）「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」
- みずほリサーチ&テクノロジーズ(2021)『社会的孤立の実態・要因等に関する調査分析等研究事業 報告書』
- 多賀幹子（2021）「イギリスの孤独対策に学ぶ」NHK解説委員会
<https://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/458360.html>（閲覧日2022年10月31日）
- 大阪府社会福祉協議会（2021）「社会的に孤立している人々への支援にむけての取り組み」
<https://www.osakafusyakyō.or.jp/minkyō/tebiki/pdf/014-4.pdf>（閲覧日 2022年11月7日）
- かねでんCSフォーラム（2022）「類似性の法則 | コールセンターの心理学」
<https://www.kcsf.co.jp/contact/similarity.html>（閲覧日 2022年11月7日）
- 岡本真希子（2022）「高齢者の孤独・孤立対策にどう取り組むか」日本総研
<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=102203>（閲覧日 2022年11月14日）

ご清聴ありがとうございました。